selfishness

アキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ｓｅｌｆｉｓｈｎｅｓｓ

【Ｎコード】

Ｎ１３０３Ａ

【作者名】

アキ

【あらすじ】

最終兵器彼女に登場するナカムラのストーリー。

なんでこんなことになったのだろう……
オレはそう思いながら銃をテキに、顔も知らない他人に向けた。相手の方はこちらに気付いてないらしい。
勝手に指先が震える、目が次第に充血していくのを感じる。
そして…俺は引き金をゆっくり引いた。
「パン」
近くで乾いた音が鳴ったと同時にテキの頭からなにかが飛び散り、テキはあっさり倒れた。この光景は何度目になっても吐きそうになる自然と涙が出てきた。
つらい。
苦しい。
せつない。
……かなしい。
相手側は俺等の攻撃に気付いたらしく反撃を始めた。
―そして戦闘が始まった―
「ダダダダダダ」
まるであびせかかってくるかのように襲ってくる銃弾の雨の中で俺は必死に自分の銃を撃ちながら走っていた。
どこへ向かって？
もう逃げることのできる場所なんてこの星に存在しないのに。
不意に銃にものすごい衝撃を受け銃は飛んでってしまった
（撃たれた）
そう思ってとっさに腰にさがっているホルダーからハンドガンを取り出そうとした次の瞬間、もう俺の体は衝撃を受けて地面に倒れていた。
―右目がくそ熱い。
撃たれたのか？

すごく痛い。
もう俺の右目には何も映らなかった。
そして激痛と共にオレの意識は遠のいていった―
―どれくらいの時間気を失っていたのだろう。
俺は額に軽く受けた衝撃で目を醒ました
かすかに見える額に置かれた銃の向こうにはテツ二尉がいた。
俺が呼び掛けると反応があった、よかった。オレはまだ声を失っていないらしい。
「死にたくない…」
声が出るとわかった瞬間まるで勝手に口が動いたようにそんな事を言っていた。
勝手な事を言っている。
わかってる。
俺はこの手で他人の命を奪った。
他人の人生を奪った。
たくさんの人の哀しみを生んだ。
そんな奴が「死にたくない」なんてばかげてる
でも、
でも、
死にたくない。
生きていたい。
「…バカ。」
テツ二尉はそう言った
「へ…へ…わがまま…すか?」
「まーな。」
テツ二尉はその時オレの気持ちをきっとわかってくれていてくれたんだろう。
その時急に俺の頭の中に“あいつ”との思い出がうかんできた。
…いや本当はきっと自分でもわからない内にいつも思い出していたのに気付かないふりをしていたのだろう。

ほんの些細なすれ違いで“あいつ”と別れてしまった事を今でも後悔している。
本当は…あの時謝りたかった。別れたくなかった。
…クソッ
クソッ。なんで、なんで俺はもっとやさしくしてやれなかったんだ。
「ああ…恋がしたい」
（もう一度だけ…）
「恋がしたいな……」
（“あいつ”と…もう一度だけでもいい…逢いたい。…逢いたいよ。）
俺はテツ二尉とかじゃなく誰かにそうつぶやいた。
その後俺はテツ二尉に頼んで自分の銃から「ちせちゃん」のプリクラを取ってきてもらった、でもせっかく取ってきてもらったプリクラはもうオレの目には見えなかった。
「ちせちゃん」。やっぱどう考えても人を殺すような娘には見えないよな、でもかわいそうなことに彼女のちいさな体には人を殺すための武器がたくさん入っている。
…人を苦しませずに殺すこともできる兵器も。
「ああ…どーせ死ぬならちせちゃんに殺されたかったなぁ……」
「バカ。あの子になんでもかんでもしょわせるのか？」
「…だって……」
（…痛いよ。）
「あの子が困った顔でなんでもかんでも包んでくれるからってこれ以上、甘えないでやれよ。」
「だって…だって…」
（…苦しいよ。）
「痛いのはいやだよ。苦しいのは…いやだよ。あああ」
本音だ。死ぬのなんて覚悟してたのに。遺書も書いた。
なのに、
怖い。

死が来るのが。
死んでしまうことが。
それを黙って聞いていたテツ二尉はゆっくり俺のこめかみに銃を向けた
なぜか銃を向けられるて少し落ち着いた。もしかすると苦しみから開放させるのをオレは待っていたのかもしれない
「なんだか悪いなぁ……誰にってわけじゃないのに」
（…ごめんなさい。）
「ああ、なんで今、オレ…こんな気持ちなんだ…？」
（先にいくことになってしまってごめんなさい。生まれてきたのになんの役にもたてなくて、誰かを幸せにもできないくせに色んな人達を傷つけまくって、傷つけることしかできなくて…）
「ああ……消えちまう……」
血でまみれた両手を掲げたその時見えないはずのオレの目には満天の星を抱える夜空が見えた。
生まれてから今まで見たものの中で1番きれいだった。
「かあちゃん……」
（ごめんな…）
—もし上の世界があるなら。オレは“あいつ”に謝りたいな。
「好きだ」って言ってやりたいな。
それでガキたくさんつくって、かあちゃん達にも見してやって。
ガキの成長を見ながら「幸せだ」って言いたいな……
「タン」
その音は夜空に響いた。

—終わり—

（後書き）

＜ｆｏｎｔ　ｓｉｚｅ＝２＞このＳＳは3巻のナカムラの話です。
やっぱ明るい話になりませんでした。
ヒトは死ぬ時、本当に何を思うのか。そしてその時後悔をしないですむのか。
これらはたぶん普通に暮らしている俺達にはわからない事なんだと思います。
では、読んでくださりありがとうございます
２００５．１．２２　ＡＫＩ＜／ｆｏｎｔ＞

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1303a/

selfishness

2010年10月10日01時00分発行